

平成30年度 佐賀県立鳥栖商業高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標 生徒一人ひとりの「生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分対応でき、平和な国家および社会の有為な形成者として、幅広い知識と豊かな心を有する、専門的知識と技能を身に付けた、心身ともに健全で実践力に富んだ人間を育成する。	2 本年度の重点目標 ①自ら考え、行動できる生徒を育成する ②自分と他人を愛することができる生徒を育成する ③夢の実現のためにベストを尽くす生徒を育成する ④失敗を恐れずチャレンジできる生徒を育成する ⑤業務改善を図るとともに、綺麗で安心な学校をみんなで作る
---	---

3 目標・評価

①自ら考え、行動できる生徒を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教材研究や研究授業の積極的開催による授業力の向上	・全職員が研究授業を複数回実施するとともに、他の職員の研究授業を積極的に参観する。	・協力して研究授業の指導案の検討を行う。他教科とも共同の授業研究会を実施し、効果的指導方法の共有を図り授業力向上を図る。
教育活動	●学力向上	・県下一斉就職希望者学力テスト成績向上 ・家庭学習時間を増やす	・県下一斉就職希望者学力テストの上位100位以内に15名以上 ・家庭学習時間を平日平均1時間以上	・事前模擬テストや対策学習会などの実施 ・家庭学習を増やす呼びかけや学習用PCを使ったICT教材の提供
教育活動	●心の教育	読書を通して豊かな心を育み、自尊感情を高める	・図書館利用者の拡大、貸出冊数・利用者数の増加 ・生徒が多くの本に触れる機会を作る。 ・朝読書の充実	・図書委員会を中心にイベントなどを企画し「魅力ある図書館づくり」を目指す。 ・レファレンスサービスの充実、移動図書館など生徒が本を借りやすい環境をつくる。 ・朝読書は全校(職員を含む)で取り組む。
教育活動	○学校の活性化	・自主的な行動 ・地域貢献	・自ら考え行動する ・自主的な校内外のボランティア活動を通して、奉仕の精神、他者への思いやりの心を育む。 ・部活動の活性化	・行事等を自ら企画し、運営していく ・校内外の清掃活動やボランティア計画、施設への慰問活動などを生徒が企画実施する。 ・生徒全員を部活に加入させ、積極的な活動を促す
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	新たな学び方としてのICT活用	・生徒が主体的で深い学びのできる教材を教科ごとに研究する。 ・生徒への授業評価アンケートにより、ICTの活用を効果的であるという生徒の割合を80%以上に上げる。	・他教科とも共同の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・研究授業や合評会など積極的に参加し、全職員で教材や指導方法について協議する。

②自分と他人を愛することができる生徒を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ事案撲滅と未然防止及び早期対応	・いじめと疑われる事案が発生したら、3日以内に対応を開始する。 ・生徒指導、教育相談、担任、顧問と連携して、生徒が相談しやすい雰囲気を作る。	・いじめアンケートを年3回実施する。 ・三者面談や面談週間では必ずいじめについて言及する。
教育活動	○マナー教育の充実	規範意識や自尊感情を高め、感謝の気持ちや思いやりの心を育てる	・生徒指導部による再検査率を生徒数の10%以下にする。	・身だしなみ指導前に、頭髪などについて呼びかける。 ・各種講演会の計画・実施

③夢の実現のためにベストを尽くす生徒を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○商業教育	資格取得の充実および商業教育の可視化を目指した取組みの構築	○資格取得の充実における各種検定の目標合格率および取得率 <<簿記関連>> ・全商簿記検定2級合格率90%以上(1年商業科) ・全商簿記検定1級会計75%以上(2年商業科) ・全商簿記検定1級原価計算85%以上(3年ビジネスコース、2年会計コース) ・日商簿記検定2級取得率60%以上(2年会計コース) <<情報処理関連>> ・全商情報処理検定3級合格率100%(1年商業科) ・全商情報処理検定1級プログラミング部門合格率60%以上(2年情管科) ・全商情報処理検定1級ビジネス情報部門合格率70%以上(2年情管科) <<流通経済関連>> ・全商商業経済検定3級100%(1年商業科) ・全商商業経済検定マーケティング合格率70%以上(2年流通経済科) ・日商リテールマーケティング検定3級合格率60%以上(3年流通経済科) <<その他>> ・全商検定1級多種目(3種目以上)取得者の増加および高度資格取得者の拡大 ○商業教育の可視化を目指した取組目標 ・社会性やコミュニケーション能力の向上、自主的な生徒の育成を図るための新たな取組の実施	・検定科目については、ティームティーチングで習熟度別指導を行う。 ・簿記・情報処理・マーケティングは、各検定直前週に特別指導補習を行う(日商簿記検定2級の受験対策として週2回の朝特課を実施) ・外部講師招聘による授業や講演会の実施 ・地域のイベントや研修会の積極的な参加やコンテストへの応募など校外活動の機会を増やす
教育活動	○心技体の育成	・文武両道を目指す ・部活動や生徒会活動の広報	・各種部活動で全国大会出場や研究大会の入賞、大会や競技会などで入賞を果たす。 ・部活動を通して、達成感や自信、自己肯定感を育ませ、将来の夢や希望を持たせる。	部活動での取組を校内外に披露する機会や、大会出場の情報や入賞、受賞の際の表彰などをメディアとの協力を得て、校内外に周知する機会を増やす。

④失敗を恐れずチャレンジできる生徒を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○キャリア教育の充実	生徒のキャリア観の育成	・キャリア教育を通して、生徒の進路について考えることができた割合を95%以上に上げる。	・1年次では進路啓発事業、2年次ではインターンシップ、3年次では進路実現などの活動を通して、将来の進路について考えさせる。 ・キャリアガイダンスの実施および外部説明会への積極的参加を推進する。 ・外部講師を招き、望ましい勤労観や職業観についての講演会やマナー講習を実施する。 ・LHRや学年集会などを利用して進路学習を実施する。
教育活動	○進路希望の達成	生徒の進路実現	・進路内定率(就職・進学)100%を達成する。	・2年次から面接指導を行う。 ・就職希望者は、夏休み学習会を行い、学力向上に努める。 ・進学朝補習や小論文指導などを行い、生徒に積極的な参加を促す。 ・公務員対策講座を開講する。

⑤業務改善を図るとともに、綺麗で安心な学校をみんなで作る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	感謝や思いやりの心の醸成	・清掃活動を通して勤労意欲や環境美化意識を高めるとともに「学校をきれいにしよう」という意識を持たせ、ゴミゼロを目指す。	・全校集会等を利用し、生徒美化委員による「学校をきれいにしよう」という呼びかけを徹底して行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化と教職員の連携促進	・単純な前例踏襲でない、効率的な業務遂行を工夫する。 ・明るい職員室づくりをめざし、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	・運営委員会を中心として、行事・企画を精選するとともに各セクション間の連絡を密にすることで連携強化を図る。 ・明るい挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるよう働きかけ、生徒と落ち着いて向き合える雰囲気を作る。
学校運営	○安全な学校	交通事故や生活事故件数を減らす	・発生件数を前年度比の50%以下にする。	・事故発生の事例を適宜生徒に周知し、交通事故が発生しやすい状況の周知を図り、自ら危険防止のための対策を取るよう粘り強く指導する。 ・学期に1回程度、PTAで交通指導を行う。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○情報発信	ホームページの充実	・ホームページの更新頻度を高め、地域、保護者、生徒が見たくなるページの工夫を行う。	・学校行事終了後1週間以内に速やかにホームページの更新を行う。また、トップページに更新履歴を残す。
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解・啓発を行い、朝食をとって登校する生徒の割合を90%以上に上げる。	・「保健・食育だより」の毎月発行 ・食について生徒・保護者へのアンケートを実施し、朝食等の大切さについて保護者に理解を求める。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目